

テーマ グループディスカッションで話した内容について、ご記入ください。

それぞれのコロナ対応と感染が発生した時の考え方

新型コロナ対策、学生ボランティアの受け入れ、養成について有意義な意見交換ができました。

ガイドラインの根拠となる情報源、実際の活動を行う際の留意点、など。

オンラインでできることは何かないかということについて、話し合いました。

指導者養成(キャンピングインストラクター養成事業)について、県協会で行う場合のガイドラインの共有やリモートでのインストラクター講習会に実施について

スクリーニングをすり抜ける無症候感染者にはどうすることもできない。

感染者ゼロの団体となるか、無症候感染者紛れ込んでクラスターとなるか、ゼロか100か博打みたいなことになる場合もあり得るかもしれない。

クラスターとなった場合の風評被害を考えると過剰な感染対策を取らざるを得ないかもしれない。

その塩梅が非常に難しい。

今後の活動予定と対策について、実施か中止かも含めて、それぞれの現状を報告した。課題や不安を出し合っただけで済みます。

以下、大まかな内容です。

1. 各所属団体の現状報告
2. 感染対策について、どう対応していくべきか(特に宿泊や野外炊事について)
3. オンラインキャンプについての事例紹介

部屋3 最近の学生の動向(ゆるみがある)、各組織の中でも職員の意識(知識)に差があり、クオリティーを保つことが課題。今後新型コロナウイルス対応はアレルギーやインフルエンザへの対応と同じように普通に意識すべきリスクになっていると考える。説明責任と組織の中でのコンセンサス。保険対応など。盛りだくさん。

・民間の施設としては県外からのお客さんに来てもらわないといけませんが、正直怖いところもある。今年度は子どものキャンプは無理かなと思っている。

・11月にCI養成講習会を行う予定。

・大学でも対面授業が始まったが、授業は三密でなくても、休み時間などで三密状況がどうしても作られるのでそのあたりが問題。

・大学でのキャンプの指導者養成は今年度は中止。

・外部への実習(保育)などで学生の感染が心配。

・今年度は8月にファミリーキャンプを開催し、テント生活もファミリー単位、野外炊事も使い捨て食器を使うなど、本来のキャンプの姿ではないが感染対策を講じ行う。

・新型コロナに対しての情報は日々アップデートされるので、ガイドライン、マニュアル、キャンプの方法もそれに合わせてアップデートしていく必要がある。

(例:2週間前からの検温→5日前から、など)

各団体での新型コロナ対策について

・マスクの着用は必要か?

どんな場面で、どのようなタイミングでマスクを着用するか?

・マスク着用と熱中症対策の両立について

マスクを着用することで熱中症になっては本末転倒

熱中症の対策も見据えた、マスク着用とは? 必要に応じてソーシャルディスタンスを保ちマスクを外すことも必要か?

・夏のプログラムでの新型コロナ感染症対策

川のプログラムでマスクは必要?

7日間で100キロ移動するプログラム、ソーシャルディスタンスで子どものモチベーションは保てるのか? マスク着用で熱中症になるのでは?

感染対策

指定管理を持つ団体の現状(運営状況、管理費用の減額等の自治体ごとの違い)

イベント、広報の難しさ

文科省事業への関わり

大学でのキャンプ実習開催予定など

→それぞれの現状報告などがメインだったように感じました。

助成金、補助金、夏期イベント・指導者講習会のありよう等

マネジメント

大学・公的施設指定管理者・NPOなどで実務を担っておられる方々とのミーティングでした。コロナ禍にあつてキャンプ指導者養成をどう進めていくか、各種助成金の申請状況などを共有することができました。

各団体の助成金や補助金への申請状況。指定管理における委託金の増減の現状。施設利用再開の目途について。福井県キャンプ協会のZoomを使ったインストラクター講習の様子

この夏のキャンプを実施するにあたって。どのように行おうか。

夏休み期間で子どもたちも学生リーダーも授業が多くなる

双方の活動機会減少

ニーズは高まる

もし感染者が出たときを考えると慎重にならざるを得ない

今夏のキャンプ事業に対する方向で「実施しない」と決めている方々が多く、5名のうち3つが、中止または検討、と答えられていたが、如何に活動を継続していくのかに苦心している気持ちを共有する場となった。

指導者養成やリーダー研修の“指導者”や“リーダー”とは、どんな立場でどんな役割でどんなスキルをもっている人を指しているのかを整理し、受講生自身の育ちの場であることを意識して指導している、というお話しをしてくださっている途中で終わってしまいました。

私自身が、先週後輩ボランティア育成の事業にスタッフとして参加していました。そのときのコロナ対策ややった内容などを情報提供としてシェアする時間があり、自分自身のふりかえりにもなりよかったです。他の人からの話もうけて、対象や世の中の状況にあわせた工夫が必要だけれども、心を通わせるってことが1番大事になってくるよなって話になってものすごく共感する部分が多くありました。他にも、野外炊事の話から、防災キャンプの話になって、防災キャンプでなくてもいまは個人に対応できるものへのアレンジは必要だなと感じました。

様々なソースのデータから検討した自前のガイドラインを基に、保護者に懇切丁寧にポリシーを伝え、理解してもらい、最終的には保護者の判断を仰ぐというやり方はなるほどと感心した。

「新しい時代におけるキャンプ」では主に以下の3つの順ではトークが交わされました。

1. 簡単な自己紹介

2. 自粛期間中の各地域の状況(福島県、神奈川県、千葉県)

自粛期間中に参加者の各地域がどういった状況であったか話し合いました。

3. 「新しい生活様式」を保ったうえでできるアウトドアアクティビティ

3密にはなりにくいアウトドアアクティビティが、その他の密になりやすいアクティビティと同質に捉えられてしまい、思うようにできないといった意見が出ました。これについては「新しい生活様式」をしっかりと遵守していれば、3密にはなりにくいことをアピールしていくことが重要であるといった意見もありました。

4. withコロナでキャンプ場やNPO団体ができること

コロナ禍でキャンプ場やNPO団体ができることを中心に話し合いました。コロナでキャンプができない状況を「チャンス」と捉え、それまでにできていなかったことをするのがよいのではないかという意見が出ました。例えば、ネットを使って全国にアピール、馬の写真を記録に残し整理するなど。無理にコロナに抗うのではなく、柔軟に適応しながら「充電期間」として、新しい試みにチャレンジする期間といった声も聞かれました。

4人でしたが、コロナウィルス感染症への対応をどうしているかをそれぞれの活動場所での考え方が中心でした

・施設管理者の立場で2名、子ども会、おやこ劇場、大学院生、5名。

・中高生リーダーの育成についてどうしよう

・大学生リーダー(ボランティア)の育成・自分たちの学びについての悩み。秋には何かやりたいが...

・子どもと一緒に過ごす大学生のボランティア、キャンプカウンセラーとも呼ぶ。子どもに指導するけれど、生活を共にする立場の人。研修は半分は子どものため、半分は大学生自身のため、というお話(今井氏)が印象に残った。

まずは、それぞれの地域の状況などを共有しました。その後、前半の3名の方の発表の中でもありましたが、感染の拡大防止のためだけでなく「団体の信用」という点でも対策をし それをしっかりと開示することが重要という話題になりました。様々な地域で活動されている方とお話しできてとても有意義な時間でした。ありがとうございました。

地域活動の野外活動では宿泊や野外炊飯などは中止になった。日帰りでどんな活動が出来るか？施設では高校大学生相手のボランティア研修など行った。手洗い消毒など基本的対策の上、接触なしのアイスブレイクなど工夫された研修だった。今回のミーティング事例発表はこの夏野外活動を行うにあたっていいヒントになったし行うことに躊躇していたが勇気が持てた。感染症を持ち込まない努力、感染症に対する正しい知識・情報を持って活動に向かう。感染防止対策された防災キャンプなど出来ることがある。アイラップを使った調理や包丁を使わない調理。

3人のグループでしたが、「他施設を利用してのキャンプ事業を企画している」というのが共通の立場で、お聞きしたいことが聞けました。他の2人は、会場までの移動にバスを使わないようにしたとのこと。「家族ごとにマイカーで来てもらう」、「会場の変更を検討」とのことでした。私が担当の事業は、公共交通機関での移動を計画しており、現在変更の予定はありません。

野外炊事のビニール調理についてや、テント泊ってどうおもうか等

子どもの主体性 責任=大人？

・「やめる」ことは簡単。しかし、キャンプが人々にとって大切なもの、かけがえのないものであることを知っている以上「体験してもらうことが大事」という立ち位置を忘れない。『勇気と希望とやる気』でやっていきたいという方の言葉が印象的でした。

私が小学4年生以上の子ども達とキャンプ活動をしています。子ども達の意見をまとめるのが大変と話しました。

・上手くいく方法を探りながらはなしを聞く。

・大人がやらせたい事をやらせるのではなく子どもがやりたい事を大人は支えるだけで良い。

・個人が好きな事ができる、主体性が出るキャンプをしたい

との話ができました。

コ
ロ
ナ
禍
の
キ
ャ
ン
プ

私の団体と同じように宮城県キャンプ協会でもファミリー対象にキャンプをすると伺い、ファミリーを対象にした決断は良かったとさらに勇気づけられました。
神奈川の野外センターは施設利用が9月まで休止とのことですが、密にならない遊びの発信をHPでされているとのことでした。

ガールスカウトさんが取り組まれようと検討しているオンラインキャンプ。これも今後の新しい形なのかと感じた。

このコロナの状況だからこそ、キャンプの主催者が改めて真摯に自分のキャンプと向き合い考えていること、その中で、一度中止にしてしまうとその先がつかなくなってしまうという思いや、今のこの状況だからこそ子どもたちにキャンプを届けたいという思い、具体的な対応(事前の体調チェック、学生ボランティア、野外炊事、など)

ファシリテーターが良かったです。ありがとうございました。

対コロナで考えた時、お客様もスタッフもいかに安全に、安心して活動できるか？まだまだ答えは出ませんが、前向きにやれることをしっかりやって、プログラムを進めてゆきたいと思いました。スタッフだけでなく、お客様にも大変ですが健康チェックをしっかりとっていただく事も重要だな～と再認識しました。

自己紹介と現状について

その他 ソロテントでの泊の実施の報告

zoomファイヤーからのリアルファイヤー

当校の周りの団体で宿泊キャンプをするところはほとんどなかったが、こちらではするという団体が多くて驚いた。また、長期のキャンプをするところもあってさらに驚いた。当校では濃厚接触者の定義にあるように、発症前2日間無症状で感染するリスクを高く評価していてスクリーニングでは落とせないと考えている。しかし、それは考えすぎなのかも思った。

※1 「その他」は、ディスカッションのテーマが無記入だったもののうち、上記3つに分類が難しいものをまとめています。